

市民一人当たりへの支出と負担はいくら？

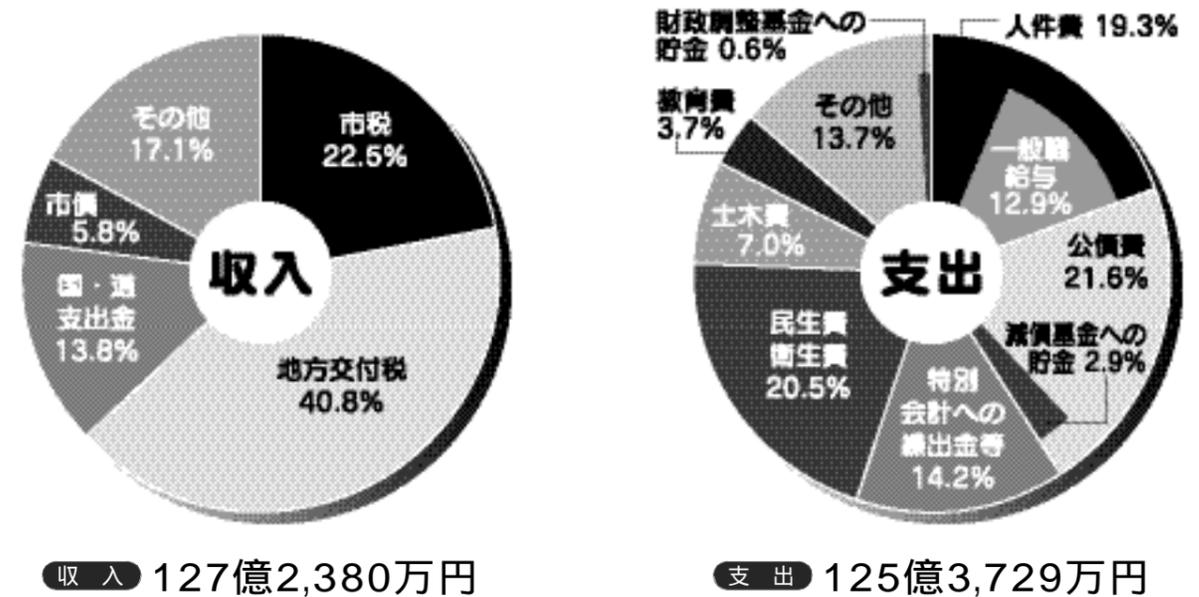
市民一人当たりへの支出は約482,000円ですが、そのうち110,000円を皆さんの税金で、残りの約379,000円を国や道からの交付金や借金などによりまかっています。差額の7,000円は翌年度へ繰り越しました。



平成19年度 留萌市決算報告

決算状況を報告します

一般会計の決算は平成17年度に策定した財政再建計画の実行により、1億8,229万円の黒字となり、基金への貯金を含めると計画を上回る6億3,334万円の黒字となりました。



注) 翌年度に繰り越すべき財源 422万円を除いています。
式: 収入 - 支出 - 422万円 = 黒字

一般会計の収入と支出は？

収入の増減は

- 市税は1億2千万円増加していますが、所得税からの税源移譲によるもので、かわりに所得譲与税2億円が廃止となっているため、実質的には減収となっています。
- 地方交付税は三位一体の改革により、平成16年度に大幅な削減(6億円)があり、平成19年度においても、平成18年度と比べて2億円減少となりました。
- 市債は新たな投資事業を抑制しているため、建設事業債は減少していますが、退職者が増加し、その財源確保のため退職手当債を発行したことにより1億7千万円増加となりました。
- そのほか、土地開発公社の長期貸付金が2億円減少、財産収入が5千万円減少となりました。

支出の増減は

- 一般会計では職員数の削減などにより減少していますが、人件費総体では退職者の増加により3千万円の増加となりました。
- 公債費は減債基金への貯金(3億7千万円)や借金返済の増加により、4億5千万円の増加となりました。
- 特別会計への繰出金は、病院の借金(長期借入分)返済がピークを過ぎたことにより一般会計が負担する経費も減少し、6千万円の減少となりました。
- 土木費は財政再建計画に基づき、事業を抑制しているため、1億5千万円減少となりました。
- 教育費は海のふるさと館の開館期間の短縮など、運営方法や経費の見直しにより、5千万円の減少となりました。
- そのほか、土地開発公社への貸付金が2億円減少、平成17年度の赤字補てんが2億6千万円減少したことにより、一般会計は1億8千万円の黒字となりました。(基金への貯金を含めると6億3千万円の黒字となります。)

収入の内訳

科目	金額	内容
市 税	28億6,237 (27億4,584)	市民税や固定資産税などの税金
地方交付税	51億8,761 (53億9,477)	市の財政規模に応じて、国から配分されるお金(臨時財政対策債を含む)
国・道支出金	17億5,420 (17億4,042)	個別の事業ごとに国や北海道から入ってくるお金
市 債	7億3,830 (5億6,360)	道路や建物の建設費などに充てるための借入金
そ の 他	21億8,132 (24億8,906)	使用料や手数料など
合 計	127億2,380 (129億3,369)	

支出の内訳

科目	金額	内 容
人 件 費	24億1,745 (23億8,342)	職員(市長・副市長・教育長含む)の給料・手当、市議会議員や嘱託職員の報酬等
公 債 費	27億564 (22億5,839)	借金の返済や今後の借金返済のための貯金など
特別会計への繰出金等	17億8,879 (18億5,325)	病院・水道・国保・老健・介護・港湾・下水道の事業会計に対して支払った経費
民 生 費 衛 生 費	25億6,673 (25億8,410)	福祉・生活保護・医療・ごみ処理等に係る経費
土 木 費	8億8,126 (10億3,449)	道路・公園・港湾などの整備や維持、除雪などに係る経費
教 育 費	4億5,966 (5億2,584)	学校教育や海のふるさと館、温水プール「ふるも」など教育施設に係る経費
そ の 他	17億1,776 (21億3,209)	議会費・農林水産業費・商工費・消防費・災害復旧費等
合 計	125億3,729 (127億7,158)	

平成19年度 バランスシート 普通会計

バランスシートは、市がこれまで進めてきたまちづくりで築いた公共施設などの資産とその財源、現在ある資産に対する世代間の負担割合などがわかる資料です。資産形成に結びつかない福祉施策などのソフト事業は、バランスシートに表すことが出来ないため、決算を説明する資料のひとつとして参考にしてください。



※バランスシートに使用している「普通会計」とは、事務者が定める会計基準のひとつで一般会計、特別会計など各会計で実施する事業の進捗が各自自治体ごとに異なるため、統一した基準で整理して比較できるようにした統計上の会計区分のことになります。

市民一人当たりのバランスシート
(H20年3月末人口 25,017人)

- 資産 166万円
- 負債 100万円
- 正味資産 66万円

※現在の有形固定資産の約半分が支払済みです。未払い分(負債)は借金の返済により年々減少していきます。(昨年度の支払済は44.9%、未払い分は55.1%でした。)



留萌市全体の決算は?

平成19年度の決算は28億9千万円の赤字

留萌市の平成19年度の決算は国民健康保険事業・下水道事業・病院事業で30億3千万円の赤字となりました。このうち、下水道事業の赤字については、健全化法の取り扱いにより、将来的に収入でカバーされる赤字分(解消可能資金不足額)として1億4千万円が控除されるため、健全化法による留萌市全体の決算は28億9千万円の赤字となりました。

この28億9千万円の赤字のうち、病院事業が占める割合は、全体の95%となっており、財政再生団体を回避するため公立病院特例債を活用しながら財政の健全化を図っていきます。

赤字会計の状況

病院事業会計/慢性的な医師不足や4回連続の診療報酬のマイナス改定により、単年度で6億3千万円赤字(不良債務)が拡大し、累積で27億5千万円の赤字となりました。下水道事業会計/借金の返済(年間15億円)が経営を圧迫し、単年度で1億1千万円赤字が拡大し、累積で5億円の赤字となりました。国民健康保険事業会計/加入者の高齢化による医療費の増加が続き、単年度で2千万円赤字が拡大し、累積で3億7千万円の赤字となりました。

■平成19年度留萌市全体の決算額 (単位: 万円)

会計	収入	支出	H19収支	H18収支	H19一般会計繰入金	
一般会計	127億2,380	125億3,729	1億8,229	1億6,209	-	
特別会計	国民健康保険事業	26億7,498	30億4,951	3億7,453	3億5,216	2億2,766
	老人保健事業	30億3,054	29億9,209	3,845	0	2億5,813
	介護保険事業	15億4,547	15億1,265	3,282	4,389	2億3,099
	港湾事業	3億4,867	3億4,867	0	0	1億3,227
	下水道事業	20億6,881	25億7,496	5億644 (3億6,545)	3億9,997	3億5,934
	流動資産	流動負債	H19収支	H18収支	H19一般会計繰入金	
企業会計	水道事業	3億8,748	4,748	3億4,000	3億8,801	1,876
	病院事業	8億5,219	35億9,859	27億4,640	21億1,680	5億6,165
	小計	12億3,967	36億4,607	24億640	17億2,879	5億8,041
留萌市全体	-	-	30億3,380 (28億9,281)	22億7,494	17億8,880	

注1) H19収支は翌年度への繰越金を除いています。(一般会計422万円、下水道29万円)
注2) それぞれの会計で端数調整しているため、合計が合わない場合があります。
注3) 下水道事業の()は、健全化法の取り扱いによる赤字額です。

財政健全化 判断比率の指標

これまででも広報誌や市政懇談会で財政の健全化について説明してきましたが、留萌市は病院の巨額の赤字(不良債務)で連結実質赤字比率が平成20年度の財政再生基準の40%に迫り、本来の基準である30%を既に超え、財政再生団体の水準に達しています。この水準を脱し、健全団体の水準になるため、7年間非常に厳しい状況になります。市民と留萌市が一体となって改革に取り組んでいきたいと思っております。ご理解とご協力をお願いします。

健全化判断比率	H19年度比率	基準	
		財政再生	早期健全化
実質赤字比率	- %	20.00%	13.78%
連結実質赤字比率	36.61%	40.00%	18.78%
実質公債費比率	12.4%	35.0%	25.0%
将来負担比率	259.9%	- %	350.0%

- ① 実質赤字比率 一般会計は1億8千万円の黒字決算となったため、実質赤字比率は該当しません。
- ② 連結実質赤字比率 36.61%で早期健全化団体の水準となりました。本来の水準では、財政再生団体の水準にあり、今後改革を実行していきます。
- ③ 実質公債費比率 公債費の比率は、平成17年度に実施した公的資金の借り換え(公債費平準化)により12.4%となり、健全団体の水準に近づいています。
- ④ 将来負担比率 259.9%で健全団体の水準になっていません。今後新たな借金の抑制に努め、健全団体の水準を守ります。

詳しくは12月1日公表の留萌市財政事情説明書で解説します。留萌市ホームページまたは、市役所1階市政情報コーナーでご覧ください。

市・財務課
☎42・1813